



AUE News

2011年4月15日

第 14 号

編集・発行

愛知教育大学広報部会

TEL 0566-26-2738

FAX 0566-26-2500



目次

- 行事予定(4月16-30日)
- トピックス
 - ・新理事就任あいさつ
 - ・教育創造開発機構運営課の開場式
 - ・入学式
 - ・新採用職員研修会
- ・韓日中教員養成大学国際セミナー
- ・ランチコンサート
- ・「学生能への招待展」で能実演
- お知らせ・報告・投稿
 - ・林真智子さんアメリカ留学記③
 - ・催しもの案内

行事予定(4月16-30日)

- 19日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
評価委員会 (役員部局長会議終了後 学長室)
大学改革推進委員会 (16:40～ 第三会議室)
- 20日(水) 経営協議会 (10:00～ KKRホテル名古屋)
教員人事委員会 (13:30～ 第五会議室)
財務委員会 (15:30～ 第五会議室)
- 21日(木) 教育実地研究専門委員会 (15:00～ 第五会議室)
- 22日(金) 附属学校運営委員会 (14:00～ 第三会議室)
- 26日(火) 役員部局長会議 (13:00～ 学長室)
- 27日(水) 教授会 (13:30～ 第一会議室)
教員採用試験願書作成ガイダンス (13:30～ 大学会館)

トピックス

新理事就任あいさつ(4/1)



2011年度を迎え、新任理事の就任あいさつが4月1日(金)、第五会議室で行われた。

冒頭、新任理事、教職員を前に、松田正久学長は、「先日の東日本大震災のような大災害で、今まで培ってきたものが一瞬で崩壊する。この地域でも東南海地震はいつか必ず起きる。安心・安全なキャンパスづくりを目指し、耐震工事を着実に進めたい」と

震災への早急な備えの必要性について述べた。続いて、新理事を紹介する中で、「国立大学の財務は極めて大変な状況にある。本学はこの地に移って42年目。大学の改修などにも尽力をお願いしたい」と協力を求めた。

新体制は、折出健二(総務担当、再任)、岩崎公弥(教育担当、再任)、都築繁幸(学生・連携担当、新任)、白石薫二(財務・施設担当、事務局長兼務、新任)の4理事。「これからの3年間、心機一転勤めたい。状



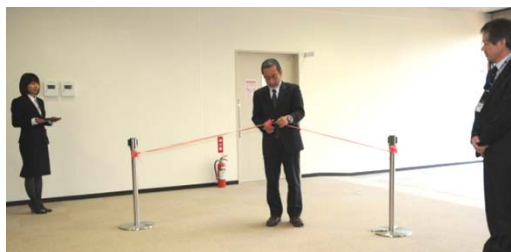
況を見ながら原則的に、かつ柔軟に対応したい」（折出理事）、「目まぐるしくいろいろな情勢が変わるが、非常時に備える必要がある。東日本の震災を教訓に本学も常に備えていきたい」（岩崎理事）、「博士課程設置、地域連携にも頑張りたい」（都築理事）、「大学事務も（業務が）スムーズに回るように下支えをしっかりとやっていきたい」（白石理事）などと、それぞれ決意を語った。

また、組織変更でこの日に発令された中原道文法人運営部長、山本良夫学生支援部長、三宅育夫教育研究支援部長、新任の濱田泰栄総務課長、福井豊財務課長も紹介され、それぞれが抱負を述べた。

教育創造開発機構運営課が開場式(4/1)

教育創造開発機構運営課事務機能が大学会館に集約され、4月1日（金）に開場式が行われた。

教育創造開発機構は5センター（大学教育・教員養成開発センター、教育臨床総合センター、国際交流センター、地域連携センター、科学・ものづくり教育推進センター）で構成され、センターが相互の連携を図ることで、本学の教育研究機能の創造的発展に寄与する目的で2009年に創設された。これまで各センターの事務室が本部棟や同館などに点在していたが、移転により教育臨床総合、科学・ものづくり教育推進の2センターを除く事務機能が集約された。



新たな事務室のスペースは、1986年の開館から昨年12月まで喫茶スペースとして使用されていた場所で、厨房設備など撤去して改修。広さは204㎡。フロアを必要最小限のパーティションで区画し、将来のレイアウト変更にも対応可能なように設計。パソコンの電源や情報の配線などを考慮したOAフロアや、床は汚れや劣化に部分補修が可能なタイルカーペット、省エネ型の照明器具など、内装や設備にさまざまな配慮がされている。

さらに、使用者が教職員、学生、学外者と幅広いことから、車いすの身障者にも対応できるように玄関から事務所への段差にスロープも設置した。

同日午後1時からの開場式で松田正久学長が「センターが集約されたことで、いろいろ活用していただければ嬉しい」などとあいさつ。テープカットの後、新しい事務室が披露された。

入学式(4/4)

平成23年度の入学式が4月4日（月）午前10時30分から、本学講堂で行われた。



本年度の入学生は初等教育教員養成課程442人、中等教育教員養成課程219人、特別支援学校教員養成課程28人、養護教諭養成課程45人、現代学芸課程255人、特別支援教育特別専攻科25人、大学院教育学研究科128人、大学院教育実践研究科（教職大学院）35人、合計1177人。

冒頭、3月11日に発生した東日本大震災の犠牲者を悼む黙とうを捧げて、式が始まった。

進行役の濱田泰栄総務課長が入学者数を読み上げ、松田正久学長が「入学を許可します」と宣言すると、新入生代表の宮原宝さん（初等・社会選修）が「本学学生としての本分を全うすることを誓います」と高らかに宣誓した。

松田学長の式辞では、大学を代表して祝いの言葉を述べた後、3月11日に発生した東日本大震災について触れ、「東日本の大学では、入学式を延期・中止したとの報道もあり、皆さんはそ

うした大学の学生たちの分も代表して出席しているということに、思いをいたらせていただきたい」と語りかけた。そして、本学での学びについて「真の教養を身につけていただきたい」「それぞれの才能を十分に伸ばし、社会と人類のために貢献するという自覚と力量をぜひ培ってください」「持続可能な社会の実現のために寄与できる、その力を培っていただきたい」などと激励。現代社会において「自らの感性を問い直し、社会的弱者の視点に立って考えられる人間に成長していただきたい」と願いを込め、「いかなる逆境にあっても、希望を持つことができるのが人間。この大学で共に学び、共に遊び、共に悩んで成長してください」などと、式辞を結んだ。（全文は、HPの「学長だより」に掲載）



この後、役員部局長の紹介、吹奏楽団の演奏、男声合唱団による学生歌が披露され、式は終了した。

また、午後6時30分からの大学院入学式には、現職教員で、仕事を終えて駆けつけた教育学研究科と教職大学院の計13人が出席して、式が執り行われた。

新採用職員研修会(4/4)



2011年度新採用職員研修会が4月4日（月）午後1時30分から、第五会議室で行われた。

同研修は、新採用の教職員に本学の教育研究のあり方や諸課題等について説明し、職務遂行に必要な基礎知識を習得させることで、大学運営の理解を深めることを目的に、毎年この時期に実施。今回は2010年4月2日以降、2011年4月1日までに採用された教員、事務職員、合わせて27人が参加した。

講師は松田正久学長をはじめ、各担当理事、附属学校部長、法人運営・学生支援・教育研究支援の各部長。それぞれ25分～15分で大学の概要などを説明した。

松田学長は「国立大学法人愛知教育大学の目指すもの」と題して、国立大学法人の仕組み、第二期中期目標・中期計画の達成、本学の位置づけ、財務など、大学の現状を説明。さらに、大学改革の方向性や、教職員への要望など挙げて、これから本学が目指すものを強調した。

予定を超えて午後5時ごろまで説明が行われ、その後の茶話会では、参加者や講師が自己紹介をしながら歓談した。

韓日中教員養成大学国際セミナー(4/7、8)

4月7日（木）、8日（金）の両日、韓国晋州教育大学校主催の「韓日中教員養成大学国際セミナー」が同大で開催された。

参加者は湖南師範大学（中国）、大邱教育大学校（韓国）、晋州教育大学校（韓国）、愛知教育大学（日本）などの各関係者で、本学からは渡邊幹男学部長兼入学試験部会副委員長と稲垣敏之前入試課長が出席した。

セミナーは晋州教育大学総長の挨拶の後、各大学の5人の教授

らから発表が行われ、話題は韓国、日本、中国のそれぞれの入学者選抜方法でいかに教職適正者を人選するかが中心となった。本学は渡邊教授が愛知教育大学における入学者選抜方法の現状と課題（高大連携入試を事例を中心に）をテーマに発表した。

受講者は現職教員、韓国内の大学関係者、学



生、及び一般市民まで約 80 人。最後に質疑応答や総合討論が活発に議論が行われ、各大学から大変有意義な意見や参考意見を聞くことができ、セミナーは好評のうちに終了した。
(情報図書課長 稲垣敏之)

ランチコンサート(4/11)

本学混声合唱団によるランチコンサートが、附属図書館のアイ♥スペースで 4 月 11 日 (月) 午後零時 40 分から開催され、多くの観客が、お昼のひとときを楽しんだ。



混声合唱団がランチコンサートをするのは、これが初めて。この日は、団員約 40 人が参加して、本学の学生歌をはじめ、「はる」「いざ起て戦人よ」「信じる」「波へ」「ルパン三世のテーマ」の曲を披露。息の合ったハーモニーに客席から拍手が沸いた。

合唱の後には、「毎週練習しているの

で、気軽に見に来てください」と団員募集のアピールもして、20 分のミニステージは幕を閉じた。

指揮者を務めた宮田郁也さん(初等教育・国語選修 3 年)は「春をテーマにした曲を中心にしました。これまではあまり学内で歌うことがなかったのですが、多くの人に聴いてもらえてよかったです。機会があれば、これからも(学内コンサートを)やっていきたい」と笑顔を見せた。



「学生能への招待展」で能実演(4/12、13)

附属図書館のアイ♥スペースで開催中の「学生能への招待展」の会場で、学生による能の実演が 4 月 12 日 (火)、13 日 (水) の午後零時 40 分から行われた。



展覧会を主催する能楽部が「実際の演技を見てほしい」と企画。会場の一角を能舞台に見立てて、能の代表的な演目「高砂」「敦盛」「鞍馬天狗」の見せ場を演じた。袴姿で登場した部員たちは、静と動の変化に富んだ舞、朗々と語られる謡などを披露。観客は、普段はなかなか目にする事のない能の世界に触れ、部員たちの熱演

に拍手を送った。

12 日には新聞やテレビの取材があり、翌日の中日新聞西三河版、ケーブルテレビ「キャッチ」のニュースでも報道され、学外から一般来場者も訪れた。

なお、展覧会は、4 月 22 日 (金) まで。能面や図書館所蔵の書物、能や名古屋学生能連盟の活動を紹介する写真パネルの展示、DVD の上映などで、入場無料。



教員採用試験セミナー(4/11-28)

平成 23 年度の教員採用試験セミナーが 4 月 11 日 (月) から始まった。今年実施の愛知県と名古屋市の教員採用試験に挑む 4 年生等対象に、28 日 (木) まで論作文、面接などの指導が行われる。

4 月 14 日 (木) には、愛知県教員試験対策の「面接概論」の講義が第 2 共通棟 431 教室で開かれ、約 240 人が参加。本学 OB が講師を務め、平成 24 年度愛知県公立学校教員採用試験について、県が求める教師像や選考方法などについて説明。受講生はレジュメにメモをするなどして、



熱心に耳を傾けた。

セミナーは自由参加で、有料（4 コマ 4000 円）。今年度はこれまで最多の 320 人の申し込みがあった。セミナーを企画・実施するキャリア支援課では「本学同窓会の協力を得て行っている、本学独自のもので、後輩への思いから、丁寧な指導がなされています。受講するか否かで例年、合否に大きく差が出ているので、教員を目指す学生には、ぜひ受講してほしい」と話している。

また、同課では、6 月から、7 月の一次試験と 8 月の 2 次試験に向けて、同窓会員の指導講師による面接指導を実施するので、こちらも受講してほしいと話している。

お知らせ・報告・投稿

林真智子さんのアメリカ留学記③

留学生活もあと残り 1 カ月程度となりました。現在「特別支援教育入門」「教育心理学」「乳幼児の発達」「子供の創造性のための遊び」の授業を取っています。授業では、周りのアメリカ人学生たちがどんどん手を挙げて発言するため最初は自分だけが取り残されている気分でしたが、最近あまり気後れせずに手を挙げて発言したり質問したりできるようになってきました。頻繁にあるテストや宿題も、他の学生より時間はかかりますが、「内容では負けない」と自信をもてるようになってきました。



「乳幼児の発達」の授業では、週に一度、附属の保育園で実習をしています。毎回のレポートや、子どもたちへの英語での声かけが難しいですが、とても楽しんでます。

授業とは別に、関係者をお願いをして、附属学校（幼稚園～高校）、公立小・中学校の特別支援教育を見学に行き、現場の先生方にお話を聞くこともできました。日本とアメリカの特別支援教育を比較する中で、それぞれにいいところがあると感じています。



3 月半ば、東日本大震災のニュースを聞いたときは、胸が痛み、自分の無力さを感じましたが、所属する Club Japan という学生団体にクッキーを作って売る募金活動をしたり、ルームメイトとともに折り鶴のイベントを主催したりする中で、ただ心配しているばかりではなく、小さなことでも自分のできることを実行することが大切だと考えるようになりました。折り鶴のイベントというのは、もともとはアメリカのプリンストン大とスタンフォード大の学生が始めた “The Million Crane Project” にボールステイト大学も参加を表明したことを知り、ルームメイトと私でその一部分となるイベントとして企画したものです。当日は来場者にお抹茶を振る舞いながら、他の日本人学生や Club Japan の助けを借りて来場者に鶴の折り方を教えるという形で、たくさんの学生



に参加してもらうことができました。その結果、短い時間だったにもかかわらず 405 羽の鶴ができました。The Million Crane Project では、折り鶴を全米から募集し、最終的には気持ちのこもった折り鶴を日本に送ると同時に、それを義援金集めの土台とし企業をも巻き込んだ大きなプロジェクトにするのが目標とのことです。今後ボールステイト大でも日本語学科主催の折り鶴のイベントが企画されており、私も参加す

る予定です。これまでの活動を通して、ここアメリカでも本当に多くの方が日本の被災者のことを思い、協力してくれていることに気づき、心が温かくなりました。

ここまでの8カ月があつという間に過ぎたことを考えると、残り1カ月は一瞬のように過ぎてしまうのではないかと考えています。悔いが残らないように毎日を有意義に過ごしていきたいと思えます。2011年4月8日

(障害児教育課程4年 Ball State University 交換留学生 林真智子)

*ボールステイト大学では、林さんを含めた日本人留学生に東日本大震災についてのインタビューをし、ホームページに掲載しています。下記のURLでご覧になれます。

<http://ballbearingsonline.com/feature.php?id=135>

[//www.bsudailynews.com/features/club-japan-fundraises-for-relief-efforts-1.2531488](http://www.bsudailynews.com/features/club-japan-fundraises-for-relief-efforts-1.2531488)

催しもの案内

◆東日本大震災チャリティー上映会

「架け橋～東日本大震災 宮城の被災ろう者は今～」を上映

4月18日(月) 18:00～19:30 (受付開始 17:30)

障害児教育棟1階511教室

定員：60人(申し込み先着順)

- ・本学卒業生で映像作家の今村彩子さんが被災地で取材した、ろう者の状況を映像で紹介。上映の後、トークを開催。参加者には1人1000円以上のカンパをお願いします。カンパは財団法人全日本聾唖連盟災害救済基金に寄付されます。

問い合わせは、「元気の風上映委員会」TEL052・621・9670

または、障害児教育・岩田吉生准教授

E-mail: yiwata@aeu.ac.jp

◆新入生歓迎「春のコンサート」

4月20日(水) 12:30～13:15 入場無料

本学附属図書館2階「アイ♥スペース」

- ・音楽教育選修・専攻3、4年生による独唱、ピアノ演奏、管楽器演奏

◆愛知教育大学天文台「第62回一般公開～子どものための講座と観望会」

4月23日(土) 18:00～20:30 入場無料、事前申し込み不要

自然科学棟5階・地学501教室

- ・子どものための天文ミニ講座と観望会を開催。雨天の場合は講座のみ。

問い合わせは TEL0566・26・2624

<http://tenmon.phyas.aichi-edu.ac.jp/>

◆「結晶の不思議展」

4月27日(水)～5月16日(月)

9:00～22:00(平日) 11:00～17:00(土日祝日) 入場無料

本学附属図書館2階「アイ♥スペース」

- ・愛知教育大学 科学・ものづくり教育推進センター企画展。菊花石、ゼブラ・ストーンなどの結晶を展示。

問い合わせは、科学・ものづくり教育推進センター

<http://www.step.aichi-edu.ac.jp>

編集後記

3・11大震災から1カ月の4月11日午後2時46分、学内で一斉に黙とうを行いました(ただし、授業等の場合は、各教員の判断で)。復旧・復興への動きが進んでいるとはいえ、なお被災地の方々の厳しい状況は続いています。福島大学教授のS氏(本学大学院出身)からの発信では、全国からの「がんばろう」が大きなプレッシャーになっているようで、私たちの支援メッセージの発し方にも配慮がいろいろあります。(O)

新年度が始まり、学内にはにぎやかさが戻ってきました。桜も学内のあちこちで咲き誇り、春真ただ中ですが、震災のあった今年は、やはりいつもの春と違います。林真智子さんの留学記にもあるように、震災の衝撃は世界中を駆け抜けています。そんな日本の危機を乗り越えるための支援の輪が世界に広がっていて、人間の心は国境や人種を超えて通じるものだな、と改めて感じます。まずは、「相手を思いやり、自分ができることを」と毎日を過ごすのみです。(K)

投稿のお願い

学内外の出来事(教育・研究・地域連携・国際交流・学内事業など)に関するニュースの提供をお待ちしております。

メール:kouhou@m.auecc.aichi-edu.ac.jp 編集責任者:総務担当理事 折出 健二